筑波學生新聞

編集・発行
筑波大学学生新聞会
代表 小幡健太郎
〒305-8691 茨城県筑波学園郵便局
私書箱29号
TEL 0298-52-4460
http://www.jks.is.tsukuba.ac.jp/~i971405
振替 00360-9-31450
1部 100円

11月号 November

150号突破記念

今月の記事

二面 桜地区特集
三面 150号記念一斉アンケート
四面 「ゲイバー蜂の巣」体験取材

―図書館情報大学栗苑祭―

危機を乗りこえ開催

集まらぬ学実委 サークルの代表者を強制加入

図書館情報大学において十月二十四日(土)、十月二十五日(日)の二日間にわたって栗苑祭(りつえんさい)が例年通り行われた。ところが、この栗苑祭にはその開催が危ぶまれた時期があった。一体なぜこのような事態が生じたのだろうか。栗苑祭開催までの裏側を探ってみた。 (美作)

今年の一学期から九月上旬にかけて栗苑祭は延期、中止もしくは規模縮小が検討された。「学園祭実行委員会の組織がうまく機能しなかった」ということが原因であった。

事の発端は学園祭実行委員会が突然解散された昨年の五月にさかのぼる。それまでの学園祭実行委員会は、有志によりサークルのような形で組織されていた。ところが、「参加団体(主にサークル)の意見が十分に反映されず、学園祭実行委員会の気分次第で学園祭の雰囲気、内容が決定されてしまう」という批判が出たり、有志だけでは人員を確保できないという状況に陥った。そのため突然の解散劇が起こった。その後、学生の間には「このまま学園祭をつぶすわけにはいかない」という意見が盛り上がり、各サークルからの代表者によって構成される新しい学園祭実行委員会が組織された。新たな学園祭実行委員会では各サークルから集めた代表者を総務・企画・会計・広報の各部局に振り分け学園祭の準備を進めた。昨年の学園祭は新たな組織の学園祭実行委員会の下でなんとか乗りきることができた。だが、今年になって学園祭実行委員会の新たな組織は思わぬ弱点を現したのだった。今年も去年同様に各サークルから代表者を集め学園祭実行委員会を組織した。ところが、今年は学園祭の開催に消極的な学生が学園祭実行委員にならざるを得ない状況や、実行委員会内でのヨコのつながりが弱くなるという事態が生じたのである。その結果、学園祭実行委員会がうまく機能せず、学園祭のパンフレットでの広告収入を得られず予算不足の状態に陥るなどの問題が生じた。そのため、今回の学園祭問題が発生したのである。学園祭実行委員長の野村健太郎さんは「去年は急に学園祭実行委員会がなくなったため、各サークルからの代表者も『学園祭をなくしてたまるか』という思いが強く、特に問題は起こらなかった。だから、今年も去年と全く同じシステムで学園祭を実行できると思った。しかし、現実はうまくいかなかった」と話す。

さらに、「多くの一般学生の学園祭への無関心、冷めた態度」も今回の学園祭問題の原因の一つである。学生に学園祭について話を聞いたところ「学園祭実行委員会の代わりに自分たちのサークルが仕切ってでも学園祭を開催したい」という学園祭開催に積極的な意見も聞かれた。一方「しょうがないから参加する」、「もし中止になったとしても何とも思わない」、「当日は他の大学の学園祭を見に行く」など学園祭に対し冷めた意見の方が圧倒的に多く聞かれた。

ところが、実際に学園祭が始まってみると「学園祭が出来てよかった」、「やったらやったで楽しい」など学園祭に満足する意見が多く聞かれたのである。「九月上旬という遅い時期に栗苑祭の開催が決定され、準備に十分な時間はとれなかった。しかし、満足とは言えないが、今年の栗苑祭はとりあえず成功したと思う」と野村委員長は話す。また、図書館情報大学の山本毅雄副学長は「学園祭は卒業生が学校に戻って集まる場、研究発表など情報発信の場として考えている。もし学園祭が中止ということになっていたとしても、学生達が自主的に判断を下し決定したことであるなら大学側が介入し開催を強制するということはなかっただろう。しかし、無事に学園祭が開催されたことはうれしい」と話す。

学園祭実行委員会の組織、学生の学園祭に対する無関心などの問題を乗り越えなんとか開催された学園祭。来年は図書館情報大学創立二十周年である。おそらく学園祭も創立二十周年記念として例年より盛大に行われるであろう。二十周年記念の学園祭を成功させるためには学園祭実行委員会の組織を改善する必要がある。

「今後も栗苑祭に関わる仕事をしたい。来年はもっといい学園祭にしたい」と野村委員長は抱負を語る。次回の学園祭に大いに期待したい。

あしぶみ常磐新線

第一回 妻木地区問題

平成十七年開業を目指す常磐新線。秋葉原―つくば間を最短四十五分で結ぶこの鉄道は新たな宅地、商業地開発が進むと期待されている。だが、同時に様々な問題点も指摘されている。不景気の特効薬となるかさらなる悪化を招くのか。常磐新線計画始動から二十一年。現在の問題点を検証する。第一回はつくば市の幹線道路問題について。 (小幡)

発端は今年九月の常磐新線関連事業の都市計画決定素案説明会でのこと。市は常磐新線とともに五地区の地域開発を行っている。その開発地域の一つ「中根・金田台地区」から延びる幹線道路が「妻木地区」の集落を分断するという素案が発表された。以前から妻木集落に幹線道路(三十㍍)が通る計画があるとはいわれていたが、市側から公式に発表されたのはその時が初めてだった。

集落が分断されては、これまでの生活が破壊されると住民はこれを拒否。「約束違反だ」「別の案を提示しないと話し合いには応じない」と、徹底攻勢の構えを見せた。

妻木地区の区長、田川忠夫さんは「これまで何度も集落内を分断するような道路は建設しないように、また迂回するような計画を要請してきた。ところが出てきた素案はそれを完全に無視している。このような案には賛同できない。集落の保全は大前提なので、それに沿った計画を提示してほしい」と語る。

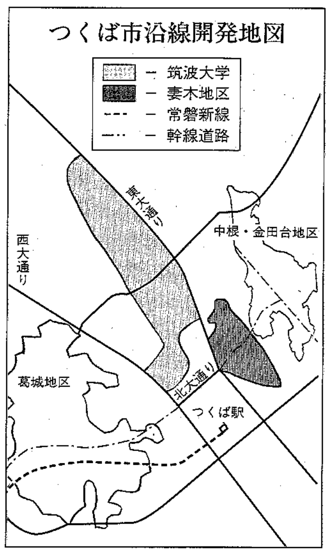
一方、つくば市常磐新線推進課は「この幹線道路は新都市幹線道路として、萱丸地区からの長いバイパスとなる予定であり、妻木地区はその一部分。道路の流れから最も適している案を提示するようにしている。恣意的に妻木地区を分断しようと思って作ったわけではない。基本的にこの道路計画は変更するのは難しい」という。

生活道路と違い、幹線道路のような大きなものはある程度先を見越した計画を立てねばならないので、その辺は納得してほしいとのこと。ここに道路を作らないと萱丸地区からの幹線道路という価値を失うので市側としても中止するわけにもいかないようだ。

地下構造の道路にするか、迂回するかしないと住民側は了承しない。だが、地下構造となると通常の数十倍の建設費用がかかってしまう。つくば駅(仮名)の様に地上がある程度発達している場合は考えられる手段だが、妻木地区は田園地区である。水田の下を道路が通るとなれば、税金の無駄遣いと批判されてもおかしくない。

住民側も九月に知ったばかりなので、まだ驚きの方が多いという。また、市も十二月の前半に出される住民からの意見書をもとに検討を重ね、合意のいく案を出していく予定だ。

都市計画決定が出ていないのは、常磐新線開発地域の中でつくば市と千葉県の柏市のみとなっている。市としては一刻も早く都市計画決定をしたい考えだ。平成十七年開業に向けて早期解決が求められる。



常磐新線…秋葉原―つくば間の五八・三kmを最短四十五分で結ぶ鉄道計画。一都三県十二市区町出資による第三セクター「首都圏新都市鉄道」が整備・運営にあたる。建設事業費は約一兆五百億円。平成一七年開業予定。一日三二・七万人の利用者を見込んでいる。

都市計画決定…地域開発の基本となる計画。住民との合意で決定する。都市計画決定後は開発区域内では建設行為が知事の許可制になる。来年三月に決定予定。

「学生の意識は低い」

エコレンジャー 学祭で環境啓発

学園祭で環境系サークル「エコレンジャー」は、来場者に発泡トレーの回収を呼びかけるリサイクルブースを三カ所設置した。また、自らの模擬店では有機栽培の米・野菜を使った炊き込みご飯を販売した。

リサイクルブースでは、来場者自身がトレーを持参し、汚れを拭き取り減容機にいれて溶かすという方法を採った。溶解後のトレーはリサイクル業者に回収してもらい、文房具などに生まれ変わる。これらは永久にリサイクルが可能という話だ。しかし、会場のあちこちに設置された分別用ゴミ箱も、結局は分別されずに捨てられていたのが現状だ。「興味のある人は立ち止まってくれるが、まだまだ学生の環境問題に対する意識は低い」という。

模擬店の炊き込みご飯には、つくば市内で生産された無農薬・有機栽培の食料品を使った。買ってくれた人には同時に生産者・生産方法を記載したプリントも配布した。「有機栽培の食材のため原価が高くもとはとれないが、細かく話を聞いていってくれる人がいて嬉しい」と話す。

またこれらの場所全てで、学園都市地域で環境に配慮した活動をしている店を載せた「つくばエコマップ」を配布した。具体的には、缶・牛乳パック・トレーの回収、有機野菜の販売、リサイクルなどを行っている店である。メンバー一人一人が一軒ずつ店を回って調査をし、全て筑波大学で出された裏紙を回収して作った。「裏紙を使うことには抵抗があったが、とことん『環境』にこだわることにした。出来映えには満足しています」と、メンバーは語った。このエコマップは、引き続き今後のエコレンジャーの活動の場でも配布する予定である。 (相澤)

▲トレーをリサイクルするエコレンジャーの人々

学生と年金

そのメリット、デメリット 免除制度について

学生といえども支払わなければならない国民年金。金額が高額なことや、年金システムへの疑問から無視・拒否している学生も多い。しかし、放置していると意外な落とし穴に陥ることも。国民年金と、その免除制度について調べた。 (増田)

二〇才の誕生日の一月前に一冊の手帳が、それ以降は一万三三〇〇円の請求書が毎月送られてくる。国民年金の請求だ。

だが、収入の多くを仕送りでまかなっている学生にとって、毎月一万円を超える金額を支払うのは難しい。たとえ、支払い能力があったとしても、ほとんどの人は他の使い道を考えるだろう。

また、年金のシステムに対する不信感を持つ学生も多い。国民年金は、老後の生活資金を自分で積み立てるのではなく、働く世代が老世代を養う。年金を受け取る世代の比率が増えるほど、年金を支払う世代は負担を強いられる。高齢化・小子化が進めば、最悪の場合、国民年金制度そのものが崩壊する可能性もある。それを考慮して、支払いを無視する確信犯の学生もいる。

国民年金を納めずにいると、もちろん自らの負担は減少するが、いくつかの問題が起きる。将来の支給額が減るのはもちろんだが、最も大きな問題は、病気やけがで障害を負った場合に障害基礎年金が支給されないことだ。重度障害に陥っても国の補助が受けられず、補償を求めて裁判に持ち込まれている例さえある。

それに加えて、在学中に国民年金が未納だったとしても、企業に就職するか公務員になれば、それぞれ厚生年金、共済年金に加入しなければならない。その場合、在学中に払わなかった国民年金分は、支給時に減額される。将来の有効性の有無に関わらず、我々のほとんどは何らかの形で年金に加入せざるを得ないのが現状だ。

しかしながら、在学中の支払いをまぬがれ、かつデメリットを防ぐ方法がある。学生には年金の免除申請の制度があるのだ。

年金の免除申請が認められれば、通常支払う年金の三分の一を毎月納めていると見なされ、当然、障害基礎年金の支給資格も得る。

申請自体は、年金手帳、印鑑、学生証、保険証と両親の所得を証明するものを持参して、つくば市の桜庁舎の国民年金課を訪ねればよい。

だが、「つくば市の学生の年金免除申請者は二七〇人しかいない」とつくば市年金課の職員は語る。大学院生を含めると筑波大学のみでも学生数は一万四千人を越える。二〇歳以下、つくば市以外に戸籍がある場合を考慮しても、免除申請率は低い。国民年金に対する学生の意識の薄さが伺える。

国民年金の将来を悲観的に見て無視するのは簡単で、負担もかからない。ただし、障害基礎年金の未支給、老後の年金支給額の減少、就職時の年金強制加入などのデメリットを考慮しなければならない。

年金を支払うにしろ支払わないにしろ免除申請だけはすべきだろう。

会告

筑波大学学生新聞会は今号で一五〇号を迎えます。九二年の休刊で一時存続が危ぶまれましたが、皆様のご支援のおかげで無事復刊も果たし、この大きな節目を迎えることが出来ました。

今後もご愛読のほど、よろしくお願いいたします。

筑波大学学生新聞会会員一同

佐高信 講演会開催

筑波大学学園祭において、評論家の佐高信氏による講演会が、社会科学研究会の主催で行われた。佐高氏は政治経済に関する辛口な評論で有名。

相次ぐ企業の不祥事に対して佐高氏は「企業のヤクザ化とヤクザの企業化が進んでいる」と話し、総会屋の例などを挙げて、企業と裏世界との癒着を批判した。大蔵省の汚職については、「一部分の汚職に矮小する動きがあるが、構造的な汚職である」と主張した。

また、「一般の人は想像力が貧困すぎる。悪人はとことん悪」と語り、企業のイメージが作られたものであり、現実の直視が必要であると訴えた。

会場は立ち見客がでるほどの盛況で、学生以外の一般客も多く見られた。来場者は「話が閉けて楽しかった」「言い過ぎの部分もあったが、面白かった」と満足していた。 (増田)

(四面に関連記事)

学生不在のゴミひろい

～春日3・4丁目

春日三、四丁目で毎月第一日曜日に「クリーンアップ作戦」というものが行われている。この活動は春日の道路や溝に落ちているゴミを拾うというもので今年で十年目を迎える。今回この活動に参加してみた。

「クリーンアップ作戦」の当日午前九時、集合場所の公園には二十人程が集まっていた。学生の姿はほとんど見られない。一人一人が五種類の大きなゴミ袋を片手に黙々と作業に励む。約二時間が経過し、ゴミ拾いは終了した。

「クリーンアップ作戦」の参加者は「今も道を歩くと拾いたくなるようなゴミが目に付くが、これでも昔よりはきれいになった」と語る。三～四年前が最も汚かったらしい。改善された理由は次のように考えられる。アパートごとにゴミ集積所が設置されるようになったこと。あふれるゴミをすぐ収拾できるように、春日・天久保地区を市が特別巡回すること。これらは自治会や住みよいつくばの会という市民団体の請願が受理された表れだ。また、地道なゴミ拾いの成果でもある。

この「クリーンアップ作戦」も活動当初は環境クラブという学生の集まりが主体となっていたが、現在では参加者のほとんどが自治会の人で学生は二～三人程度である。春日三、四丁目の住民はゴミ拾いへの学生の参加を呼び掛けている。それは、学生の街を学生の手できれいにするべきだという意図ももちろんある。だが、理由はそれだけではなく、自治会の人々は学生との交流を望んでいるためだ。昔はゴミ拾いを通じて地域の住民と学生の間に付き合いがあり、お花見やお月見をしていたらしい。春日三丁目の吉田さんはこう語る。「学生に期待しているんですよ。せっかくなんだから、もっと地域に関わってほしい」。 (北岡)

自主休講

TVが面白くない▼今、世界バレーボール選手権が日本で開催され、某TV局が連日放送する。「四年に一度のワールドカップ」「守護神リベロが日本を救う」「美女軍団ブラジル」、宣伝文句は多い。だが、どうも無理矢理作り上げた世論のような気がしてならない。サッカーのフランスワールドカップの時とは違い、TV局が強引に盛り上げようとしているのではないか。四年に一度という点を強調し、リベロという新しくできた守備専門のポジションをヒーローにしたてあげる。実際に興味を持っている人はどれだけいるのか。確かに情報提供はマスコミの役目ではあるが、視聴者を巻き込もうと必死なTV局の姿は滑稽ですらある▼くだらないCMも増えたと思う。センスのないもの、意味の分からないもの、ちっとも笑えないもの。もうちょっと考えてよとお願いしたくなる。多額のお金を使った視聴者無視の番組やCM。しかし、そのCMがシリーズになったりする▼今日、メディアはめざましい進歩を遂げた。まだその過程にあるのかもしれない。しかし、そのメディアを通して伝えられる情報の発信源は進歩しようとしているのか▼小紙は今回で一五〇号を迎えた。「メディア」というものを考え直すよい機会であった。我々が今どういう立場にあり、そしてどうあるべきか。だが、これは我々だけの問題ではない。何をどう伝えるのか。そしてそれをどう受け取るのか。筑波学生新聞でも読みながら、ゆっくり考えてみてはいかがですか。

筑波学園文庫
古書買入
学術書・専門書
筑波大教科書・参考書
SUKIYA デニーズ 珍来 東大通り 学園平塚線 筑波学園文庫 至大学会館
つくば市天久保3－21－3
TEL/FAX(0298)56-0322

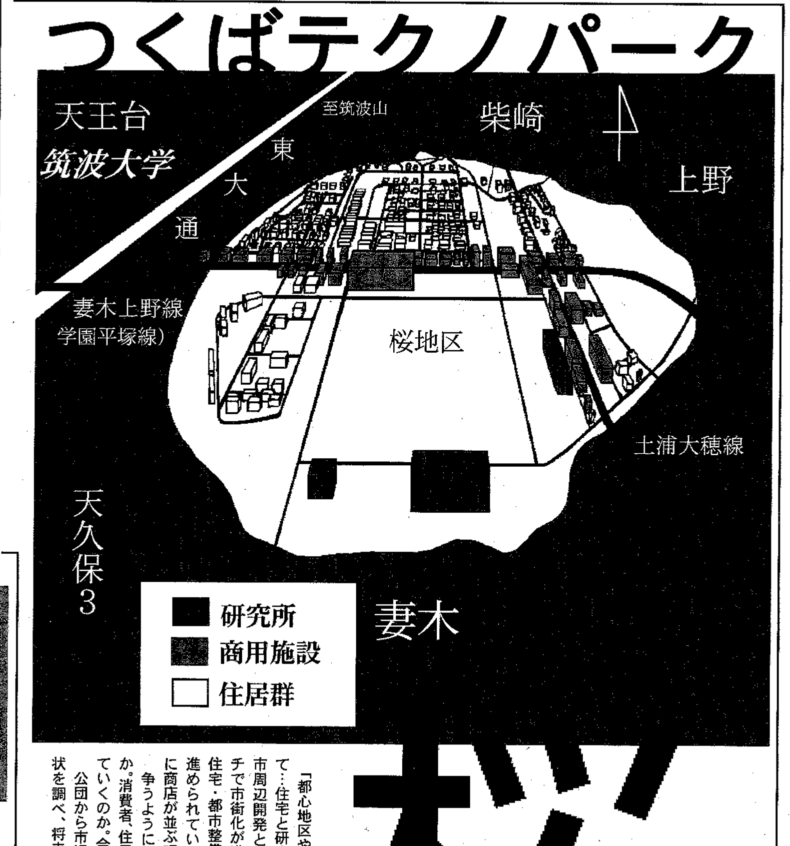
運転免許
★低料金
★早い卒業
★安心
歓迎 筑波大生
公認 明野自動車学校
0296(52)2811
筑波大学生申込所
筑波学生教職員生協
0298(55)9331

車検整備・鈑金塗装
おまかせコース＝Aコース
格安コース＝Bコース
※車検基本料 15,000円
激安車検うけたまわります
有限会社 山一オート
つくば市大字要245
TEL 0298-64-1311
FAX 0298-64-7797

忘年会・追い出しコンパ・お返しコンパに
各種宴会・パーティー・コンパ只今受付中
ボリュームたっぷりの料理が豪華で
美味しくて安いのが人気の秘密
学生特別コース：2000円コース／2500円コース／3000円コース／飲物 ビール(大)340円 日本酒(一合)250円
会席料理：3000円コース(8品)／4000円コース(9品)／5000円コース(10品)
学生特別割引：1000円飲み放題(2時間)／ビール・日本酒・焼酎／ウイスキー・ジュース／完全個室・送迎無料／カラオケ無料／アルコール持ち込み無料
つくば宴会センター 56-4128 年中無休
http://www.ing.japan.or.jp/tsukuba/enkai-center/yuga/

一生無事故で快適カーライフ！
①筑波大生特別企画実施中
※優先予約・格安料金・完全送迎
②ご紹介キャンペーン
※お一人ご紹介に付1万円進呈
[期間] 11月中
公認 早い上達、早い卒業 上筑波自動車学校
つくば市寺具中台1268-2
☎(0298)69-0931(代)
フリーダイヤル 0120-000932

つくばテクノパーク



桜　その街づくりを見る

「都心地区や筑波大学に近接した立地条件を生かして…住宅と研究所等が共存するまちづくり」－学園都市周辺開発として、昭和六十三年から始まり、急ピッチで市街化が進むつくばテクノパーク桜の概観図だ。住宅・都市整備公団（以下、公団）や地権者を主導に進められているのだが、当初の見取り図と、通り沿いに商店が並ぶ現在の桜の街並みは結び付かない。

争うように出店した企業は、市場を開拓できたのか。消費者、住民は桜地区に何を求め、どんな街を作っていくのか。今なお流動する街の顔は、まだ見えない。

公団から市場、住民に委ねられたテクノパークの現状を調べ、将来を予測した。

（特別取材班）

①都市計画の経緯

商・住・研究所　区画毎に独立

桜地区の人口の推移

1995年	柴崎(注)	382人
1997年	桜	938人
1998年	桜	1271人

（注）桜地区は１９９６年に柴崎地区より分割された

都市のインフラ整備から開発の方針までは公団が行っている。テクノパーク桜の場合、土地整備の着手からわずか三年で現在の形まで発展した。ただ、実際の都市開発は市場原理が大きく働く。公団が示す開発規制は緩やかで、乱開発、あるいは公害の発生を未然に防止する目的が大きい。

（丹羽）

公団の主な業務は、私有地及び公有地の整地、都市基盤の整備、公団所有地についての土地利用、街作りの概要を定めた「地区計画」の提示がある。

「地区計画」にある土地利用の方針を見ると　県道土浦大穂線沿道については商業、業務住宅等の複合的な土地利用　妻木上野線沿道（東西に走る学園平塚線の延長線）は地区の活動軸として商業、業務、住宅等の複合的な土地利用　地区中央及び東側の大街区は研究所等の立地　その他は、低層住宅を主体とした良好な居住環境の形成を目指す、となっている。この内容に沿う形で街区がレイアウトされている。

商業施設を二本の幹線沿いに限定したのは、交通量が比較的多く、また以前公団が歩行者来場型に開発した並木、松代等のショッピングセンターで予想以上に来客数が少なかった経緯のためだ。商住の近接より車社会のつくば市に対応した結果といえる。

幹線道路を中心に　車社会に対応

この方針も含めた地区計画制度は、建築、開発の誘導、規制を目的としており、桜開発に関する同制度はつくば市で条例化している。建築物の用途や面積などについては、つくば市都市開発部都市計画課が建築基準法に基づいて定めた「地区整備計画」で規制されている。住宅群、商業区、研究所が区画毎に独立しているのはこのためだ。ただ桜地区の場合、規制を受けるのは公団の所有用地に限られる。そのため、騒音上は好ましくないが、私有地では住宅を裏に控えた道路沿いに深夜まで営業するファミリーレストランができるケースなども生じている。一方で騒音防止のため、住宅地に侵入する道路口に段差を設けたが、自転車利用の住民からは不評を買っている。

公団所有地の用途を見ると、南、東側の大街区に民間、政府の研究所、妻木上野線沿いにカスミ（スーパー）、カワチ薬局（ドラッグストア）、友朋堂（書籍）の誘致。なお、カスミは借地しているのだが、カワチ薬局については土地を買い上げたうえ、店舗を設置している。友朋堂は土地を所有しているが、店舗の設置は未定。同線の北側ブロックに点在する用地に公園及び、一戸建住宅（一七〇戸、ほぼ完売）の建設、となっている。

「一般住宅地」と表記されている民有地の用途については、不動産屋が仲介して、地権者自身が決定する。公団は私有地利用に関与する権限がなく、市の建築条例も抽象的な内容のため、市場の原理が介入しやすい。結果的に、道路沿いの私有地には商業施設、その裏側にアパート群が建設されている。これは単純に、一戸建住宅の賃貸と比較したときに、アパート・マンション管理や企業が支払う借地・出店代の方が土地所有者にとって儲かるためだと考えられる。

当初の計画戸数は公団所有地、私有地合わせて一一〇、計画人口三四〇〇人（一戸に三人強・一戸建に核家族が住む計算）が想定されていた。公団が当初描いていた住環境－研究者の永住、職住近接とは違った形になっている。これが、桜地区の今後の発展にどう影響するのだろうか。

②買い物客意識調査

広範囲から自動車で訪れ　一つの店で買い物をする

つくば市桜ではここ数年スーパーマーケットやドラッグストアなどが著しい勢いで建設中である。この商業集積地桜では、どんな場所からどんな客がきているのか。カスミ、カワチ薬局ビッグA、マツモトキヨシまるもに協力していただき店頭で客にアンケートとり調査した。（有効回答数百六十）

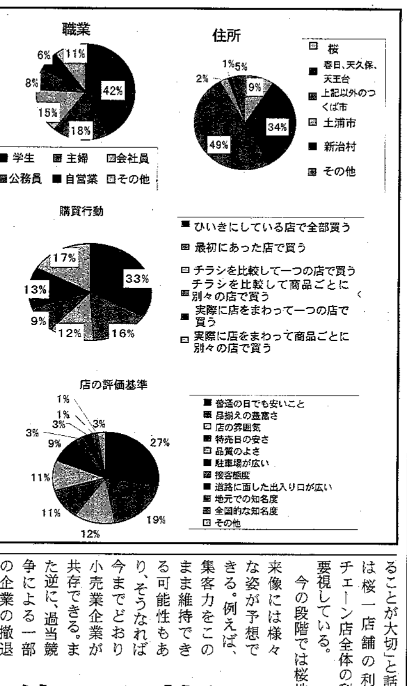
（本江）

桜地区のスーパーマーケットやドラッグストアへ買い物に来る客は、多い順に学生（四十二％）主婦（十八％）会社員（十五％）となっている。客の住所の九％は桜、三十四％は春日、天久保、天王台と、住民に学生が多い。スーパーマーケットの客で最も多いのが主婦ではなく学生であるのは特殊なケースである。その他の客の住まいとしては、近くは竹園、要から、遠くは牛久、新治村までと広範囲に渡っている。まるもは当初半径二～三kmしかチラシをまいていなかったが、客の要望で広範囲にまくようになったという。

遠くから来る客のほとんどは、交通手段として自動車を使っている。桜地区にいた客の六十七％が自動車で来ていた。まるもは多くの客から駐車場が狭いとの苦情をうけ、約二倍に広げたという。その他全てのスーパーマーケット、ドラッグストアにも広く入りやすい駐車場があり、郊外ロードサイド型の典型的な店舗形式となっている。店を選ぶ基準にも「駐車場が広い」「道路に面した出入り口がある」が合わせて十一％ある。

桜にくる目的の五十九％は日用品、つまり食料品や日用雑貨の購入である。では同じ系統の店が並ぶ中、客はどのような店選びをしているのだろうか。「チラシを見て買う店を決める」という客は二十一％と意外に少なく、「ひいきにしている店でいつも買う」が三十三％、「実際に行ってから決める」が三十％であった。客が店を選ぶ基準は、普段からの安さ（二十七％）品揃え（一九％）店の雰囲気（一三％）品質（一一％）であった。このことから客を集めるには、チラシよりも普段から店の質を高めることにより、固定客をつかむ、どの店で買うかまだ決めていない客に買い物してもらうなどする方が良いようである。そして多くの店が集中しているにもかかわらず、「一店で全てを購入する」の七十四％が「別々の店に分けて買う」の二十六％を大きく上回っている。それはどの店でもある程度欲しいものが揃ってしまい、いろいろな店を回るとその分時間と労力がかかるからであろう。

商業集積地桜、遠くからわざわざ来る客も多いことから桜地区全体に魅力はあるようだ。しかし客側にとってみればどの店でも同じ様なものが手に入る。一店で全ての物を揃えてしまう客が多いことを考えると品物の新鮮さ、品揃えの豊富さ、安さなど他店との違いを出していき、ひいきにしてくれる客を増やしていくことがことが大切である。



③出店企業の思惑

ライバル社の独占　防ぎ商圏拡大狙う

不況にもかかわらず、最近の桜の発展はめざましく、桜地区にはたくさんの小売店舗が立ち並ぶ。その発展の裏にある小売業企業間の競争と企業の思惑について調査した。

（森）

桜地区への小売業企業の進出は、ここ数年間の都市開発と共に急速に行われてきた。そのほとんどが大型駐車場を構えたチェーン店であり、幹線沿いに立ち並んでいる。

この様な郊外型大型店舗の出店の加速は九〇年代に本格化した。その裏には大規模小売店舗法の改正があり、それによって将来環境、騒音問題等の規制がますます厳しくなるとされる。そのため比較的緩やかな今のうちに出店しよう、という企業側の意図が背景に見える。自社が出店しなければ他社に商圏を喰われるという構図の中で、商圏拡大の競争は厳しくなってきている。

桜地区も例外ではなく、チェーン店の小売業企業の出店が急速に行われてきた。ただ、桜地区の場合そのほとんどが同業種である。例えば、スーパーではまるも、カスミ、ビッグA、ドラッグストアではドラッグ寺島、マツモトキヨシ、カワチが同じ地区にある。業種はスーパー、ドラックストア、コンビニエンスストア、ファミリーレストランと多彩だが、特に目新しいものがあるというわけではない。

商業地区として、企業側が今の段階で最も重要視している桜地区の魅力は「商店の集中」で、「店が多いことは人通りがよくなるのでよい」という意見はどの店からも共通に聞かれた。しかし、その他の魅力としては「交通の利便性」「新規オープン」「改装・増築」程度である。

だが企業はこの魅力のなさに対しては、あまり問題意識は抱いていない。どの店も桜一店舗としての利益の独占よりも商圏拡大という企業全体の利益へ目標をおいている。ドラック寺島副店長は「同じ物がどこでも買える今の時代、客がどこの店に行こうかと考えたときに、選ぶ店の選択範囲のなかに自社が入ることが大切」と話す。企業は桜一店舗の利益よりチェーン店全体の利益を重要視している。

▲小売企業店舗の並ぶ桜・妻木上野線沿い

撤退、存続、入れ替えは　消費者の動き次第

今の段階では桜地区の将来像には様々な姿が予想できる。例えば、集客力をこのまま維持できる可能性もあり、そうなれば今までどおり小売業企業が共存できる。また逆に、過当競争による一部の企業の撤退も考えられる。すでに桜地区の魅力「商店の集中」、「交通の利便性」以外には限界が見え将来、チェーン店全体としての利益に桜の店舗が貢献できない可能性もある。その場合一見、安売り競争が減るなどの消費者へのデメリットが大きいように見える。しかし、反対に他業種の店舗が撤退した企業の穴埋めをする可能性もあり、その場合は消費者にとって店の選択圏が広がるというメリットが広がるのである。

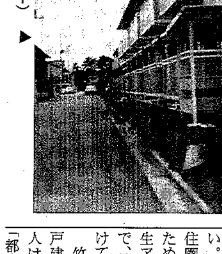
このようにどんな将来像も消費者の需要が左右している。同様に現在、桜地区の小売業企業が共存できているのも消費者がそれを望んでいるからである。小売業企業間の競争の裏には常に消費者の影が見え隠れしている。今後の桜の姿をどう消費者は望み、変化させていくのだろうか。

④都市緑化

公団は生垣を推奨　けれど維持は住民次第

しらかし、桜が植えられた二本の通りや研究所、公団分譲の一戸建住宅、商店の生垣。桜地区では大小様々な緑の景観が見られる。

地区の整備計画にある、街路樹や生垣の設置、建築物の高さや間取りの規制等によって、都市全体として緑の美しさを保とうという事項のためだ。ただ、住宅区画に一歩足を踏み入れると、緑の塀ばかり目に付く訳ではない。一部のアパートや一戸建では狭いスペースにまばらに木が植えてあるだけだったり、低い柵で囲まれているだけのものもある。



▲生け垣を設置した住居（上）としていない住居（下）

公団は「住民の手によって生まれる美しい景観の街は、住む喜びと誇りを生み、しかも資産としても大きく育っていく」と謳い、パンフレットで生垣の植栽を推奨する。とはいえ、緑の維持は住民任せの上、公団は地権者の土地利用に口を出す権限はない。

自宅の庭に木を植えていた住民は「緑の塀は気持ち良いけど、維持が大変」と話す。アパートで言えば、管理人自身が桜地区に住んでいないことも多い。結局、緑の維持はそこに住む住民が努めるほかない。

ポイ捨てのゴミなどもそうだが、都市の景観には住民の公共性が表れる。大学生も多く住む桜地区で緑豊かな街の実現はまさに「理想」だ。

（丹羽）

これからの展望

希薄な人間関係　街の方向性見えず

学園都市周辺開発とあって、利便性はあっても人工的な雰囲気を感じる。合理的ではあっても、町の顔が見えない。市計画の段階で商圏、居住圏を有機的に独立させたため、更に一戸建ての中に学生アパートが進出したことで、地区としての統一感が欠けてしまっている。

竹園の公務員宿舎から一戸建に引っ越したという住人は、桜の住宅街について「都会的というか、昼間働いている世帯が多いこともあって、隣近所とは挨拶程度の付き合い。アパート回りの路上駐車が迷惑な位で、街並みもきれいで大きな問題がないから、かえって近所の人と共通の話題がない」と話す。自治会活動は「公民館のような集まる場所もないし、たまに回覧板が回ってきて、ごみ拾いをする程度。（年間六〇〇〇円の）自治会費が余るほどだから、たいしたことはしていないと思います」という小規模なものだ。商店や学生は町内活動には関わっておらず、「一年半住んでいるが、近所の住人の顔と名前が一致しない」（先の主婦）ほど、街の人間関係は希薄だ。

ほとんどの大資本チェーン店は土地を借りて営業しており、集客力が無くなればいつでも撤退する準備ができていると見て取れる。商圏を広い範囲で設定している時点で、地域密着の姿勢が伺えない。大部分の買い物客も利便性以上を望んでおらず、外食店の利用も少ない。

数少ない個人経営店はチェーン店のおこぼれを受けている面もあるが、基本的には企業努力で常連客を確保しながら、地道に営業している。スーパーの近くに店舗を構える飲食店主は「買い物ついでのお客様はほとんどいない。くつろげる雰囲気にして、近辺の方が集える場所にしたい。常連客を少しずつ」と話す。

若林幹夫社会学系講師（都市論）は「公団の役割はインフラ整備までで、それ以降は住民の要求に市場や役所が反応して、街は発展する。住民の自治活動に商店も巻き込んで、都市の一員としての立場を意識させ、街全体としての一体感が出ると良い」という。だが、日常生活には不自由せず、足りないものを（車が発達しているため）地域外に求められる環境にあり、住民と居住都市が結び付きにくい。結局、学園都市全体に言えることだが、「どこにでもある」以上の要素がない無個性な街になっている。

都市は生き物。そこに住む人々の要求と選択に市場が反応して、町は変遷していく。だが、実際にできたテクノパーク桜からは市場や公団の思惑ばかりが見える。それ以前に、住民が求める街のイメージが見えてこない。

ただ、この地区は生まれたばかりだ。永住する人達に、街の将来を託したい。情報や交通が発達しているとはいえ、一番身近なのはやはり自分たちが住む地域のはずだからだ。

（丹羽）

偏見に架ける橋

障害学生インタビュー＜第４回＞

皆が私に対する　扱いを知らない

山崎沙弥香（仮名）の場合

かすかな光を感じる程度の視覚、手の感触と音で人や物を識別する。例えばリンゴといえば、すべすべして固い、球状のもの。〇〇君は低くて落ち着いた声、××さんは明るくはっきりした声。夢を見ることもあるが映像はなく、音と手が覚えた、自分中心の世界だ。

病名は網膜色素変性症。原因は不明、進行速度や発症時期も患者によってまちまちだ。彼女の場合、生まれつき光覚だけしかなかった。事故で盲目になったり徐々に視力を失った視覚障害者と違い、人や物を見た記憶がない。

触覚と聴覚が目の代わりで、特に声や物音には敏感になった。取材中、周りに人が居なくなり静まり返ったとき「すごく不気味な感じがする」と言ったのに納得した。

視覚健常者が目をつむって歩いたときに感じるような怖さはないという。居慣れた場所や道なら、どこに何があるのか分かるからだ。危険なのは、何もないはずの通路に物が置いてあったり、教室内の机の配置が変わったときだ。ペデストリアンの通路上に自転車が置かれた場合など、普段歩き慣れていて注意しないため、よくぶつかるという。

また不慣れな場所に行く時は人に案内してもらうか、行った先で道を聞かなければならない。ただ人に尋ねる場合、相手が自分に注意を向けているのか分からないため、誰かに声を掛けてたもらうまで待たなくてはならないことも多い。

盲学校では「白杖を持たずに走り回れるような」環境だったため、自分を障害者と意識することも少なかった。筑波大に推薦入学して、「皆が私に対する扱いを知らない」ことに気づいた。大学で障害者に対する政策やエチケット教育を研究してきたのも、つくばという健常者社会で生活を始めて感じた、障害者への無理解が根底にある。

白杖を使用するが、歩行補助になる程度で、むしろ周囲の人に自分の存在を伝えるシンボルとしての役割が大きい障害者に接する際、「どう対応したらいいか分からない人も多いと思う」と話す。

左手を先導者の右の肘に添え、右の空間や足元に気を付けてもらい、ペースを合わせて歩き先導する、以上を道案内を頼む時には伝える。相手の身になれば分かることだが、実際に取材場所に案内を頼まれた記者は戸惑ってしまった。日頃接する機会が少ない視覚障害者に対して、想像力を働かせるのは難しい。

将来も障害者理解のための研究を続けて行きたいと考えているが、まだ分からない。結局、障害者を知るには、直接接するのが一番だとも考える。「筑波に来て以来、周りの人を巻き込んで自分のことを知ってもらおうとしてきた」。

取材を振り返って、難しいなと思った。企画の趣旨＝様々な障害者を個人として伝える前提として、記者の取材相手への理解があるのだが、自分がどれだけ彼女を知れたか。執筆しながら自問自答を繰り返している。

音と触感の世界。頭では分かったつもりでも想像が付かない。偏見が周囲の人間の無知から生まれることは再確認したが、この記事がどれだけそこから抜け出せただろう。読者の反応を待ちたい。

（丹羽）

寝具専門の店　夢がふくらむ
ふとんの日庄
学園東大通り一の矢神社前
TEL 0298-64-2591(代)
←荒川沖　下妻・つくば方面→　東大通り　日庄　一の矢神社

あったか〜い　手作りの　おふくろ弁当
おふくろ弁当学園店
つくば市天久保３－１０－４
TEL０２９８－５１－１９５０

春日歯科医院
診療時間］AM9:00～PM1:00，PM2:30～PM7:00
（但し、火・土曜日はPM6:00まで）
［休 診 日］日・木曜日，祝祭日
つくば市東平塚（大学病院北側）　TEL51-1333

最大　３３％大幅値下げ
株）トヨタレンタリース茨城
―筑波学園営業所―
営業時間　8:00～19:00　電話５１－０１００

筑波学生新聞１５０号記念企画

筑波大生一斉アンケート

筑波学生新聞では創刊一五〇号記念として、様々な角度から現在の筑波大生像を探ってみようという「学生一斉アンケート」を実施した。無作為抽出した一般学生三〇〇人（内有効回答数二四六人分）を対象にし、大学・生活・交際・就職・つくばという多岐に渡った質問に答えてもらった。本文で触れていない質問の結果もグラフ・表にまとめたので、そちらも参考にして頂きたい。どんな学生像が見えるだろうか。（三上）

大学編

「科学の街」から「陸の孤島」へ

―入学前との強いギャップ

まずは筑波大学のことを尋ねた。学生は大学にどんな思いを抱いているのだろうか。

講義出席率①を尋ねたところ全体の七割近くの学生が「七五%以上授業に出席している」と答えた。それにも関わらず授業カリキュラムの満足度②を聞くと「あまり満足していない」「不満である」が約六五%にも上った。つまり、約六割の学生は不満を抱きながらも我慢してか、あきらめてか毎日授業に出席していると言える。

入学前の想像とのギャップ③については「想像とは違うが満足している」「想像と違って不満である」という、何らかのギャップを感じている学生が約六割を占めた。つくばに対して抱くイメージを考えてみると、八五年のつくば万博、ノーベル物理学賞受賞者の前学長江崎玲於奈氏などから「科学の街」などであったことが予想される。また現在の筑波大のイメージ④の上位が「陸の孤島」「田舎の大学」であることから、入学してみるとただの田舎だった、というのが本音なのだろう。

「〇〇」がなきゃ筑波大じゃない」⑤の〇〇にはいる言葉を自由に答えてもらった。圧倒的多数が「宿舎」「自転車」であった。最近は車持ちが増え、新入生の宿舎入居率が減少気味だが、両者は依然として筑波大生誰もがお世話になる、筑波大独特の単語なのだ。

また五位に前学長の江崎玲於奈氏七票が入っていたのに比べて、北原現学長には一票も入らなかったのも印象的だ。江崎氏は相当筑波大学のアカデミックなイメージと合致していたのか、それともあまりにも地味すぎる現学長北原氏への声無き批判の現れか。

生活編

筑波大生は気ままな一人暮らしをどのように謳歌しているのだろうか。

最近熱中していること⑥を尋ねたところ「サークル」（二九%）「音楽」（二六%）「勉強」（二二%）「スポーツ」（二〇%）の四つが前回の調査（九三年実施）に引き続いて上位に入った。相変わらず学生の興味に変化はない。社会的に若者の意識を大きく変える出来事も無く、学生は変わらない生活を送っている。

電化製品の所持率⑦では、家庭的な製品が多いのは前回と同じであったが、その所持率においては大きな違い見られた。例えば電子レンジは三三%→七八%というように、全般的に増加した。学生が経済的に豊かになったのか、ライフスタイルの変化があったのか。

夕食の自炊、外食率⑧では「男は外食、女は自炊」という男女差がはっきりでた。自炊中心の男女比は一対三、外食中心では四対一となり、家庭的な女子、面倒臭がる男子という絵に描いたような結果であった。

好きな、またはよく利用するブランド⑨を挙げてもらったが、半数が無記入・特になしだった。つくばでは欲しいブランドは、なかなか手に入りにくい。そもそも大学自体、こんな片田舎、実際見てくれるのは毎日学校で顔を合わせる同じメンツばかり。ファッションよりも自転車に乗れる格好か否かが優先されてしまう。こんな事情のもとで筑波大生がブランドを意識しなくなるのは当然かもしれない。

また回答の中には、パソコンメーカーや電化製品の企業など、明らかに発想が異なると思われるものも少なからずあった。どうやら筑波大学では「ブランド＝ファッション」という構図が必ずしも成立しないようだ。さすが筑波大、マニアックな学生も多いようだ。

同棲について⑩では「自分がしている、していた」「知り合いが」「近所で」いずれかの回答をした人は七割にも上った。一人暮らし率八割以上の筑波大ならではの結果である。恋人と一緒に寝食を共にでき、しかも稼ぎの心配はしなくてよい、互いの家があるから荷物の置き場には困らない。何より親の目、世間体を気にする必要もない。こんな都合の良い夫婦ごっこはない。ちなみに恋人⑪は全体の三〇%の学生にいることから、恋人がいる人の三人に一人は同棲を体験している計算になる。

情報源⑫は「テレビ」（七〇%）が圧倒的な強さをみせた。それに比べて新聞（四一%）は口コミ（四一%）とほぼ同率と、『活字離れ』の実態がはっきりした。テレビは一人暮らしの寂しさを紛らわしてくれる、格好のお友達なのだ。

雑誌に関する質問⑬は性別でかなりの差がでた。男子は漫画系が最も多い。しかし全体に占める割合は二〇%程度。それに比べて、女子は一位のファッション系に六一%が集まった。男子の人気雑誌は「少年マガジン」、女子では「ノンノ」。特にノンノは異様な人気（女子中二二%）で、全体の結果でもだんとつトップ（二五票）であった。

就職編

学生は就職に関してどのように考えているのだろう。

就職を決める切り札⑭を尋ねたところ「趣味・特技」が二四%でトップに、「資格」が二〇%で二位であった。「資格」という評価し易いものよりもなぜか「趣味・特技」という、個人の価値観に近いものの方が多い。これは履歴書に書けるような資格を持っていないか、または後者をより重視する学生が増えたと考えられる。しかし、ダブルスクールが増えてきている現在、資格が軽んじられるとは考えにくい。やはり、資格を持っていない、または取得しようとしない学生が一番熱中していたサークルを、特技や趣味として切り札にするのであろう。

人生編

学生の人生観に触れる質問をしてみた。

人生で一番大切なことという質問では、「自分」が圧倒的に多かった。「個人主義」（例えば、付き合いより自分の趣味・時間を大事にする、など）的な世相を反映した結果と読むこともできる。

筑波での生活

謳歌派・嫌悪派―わかれる評価

つくば編

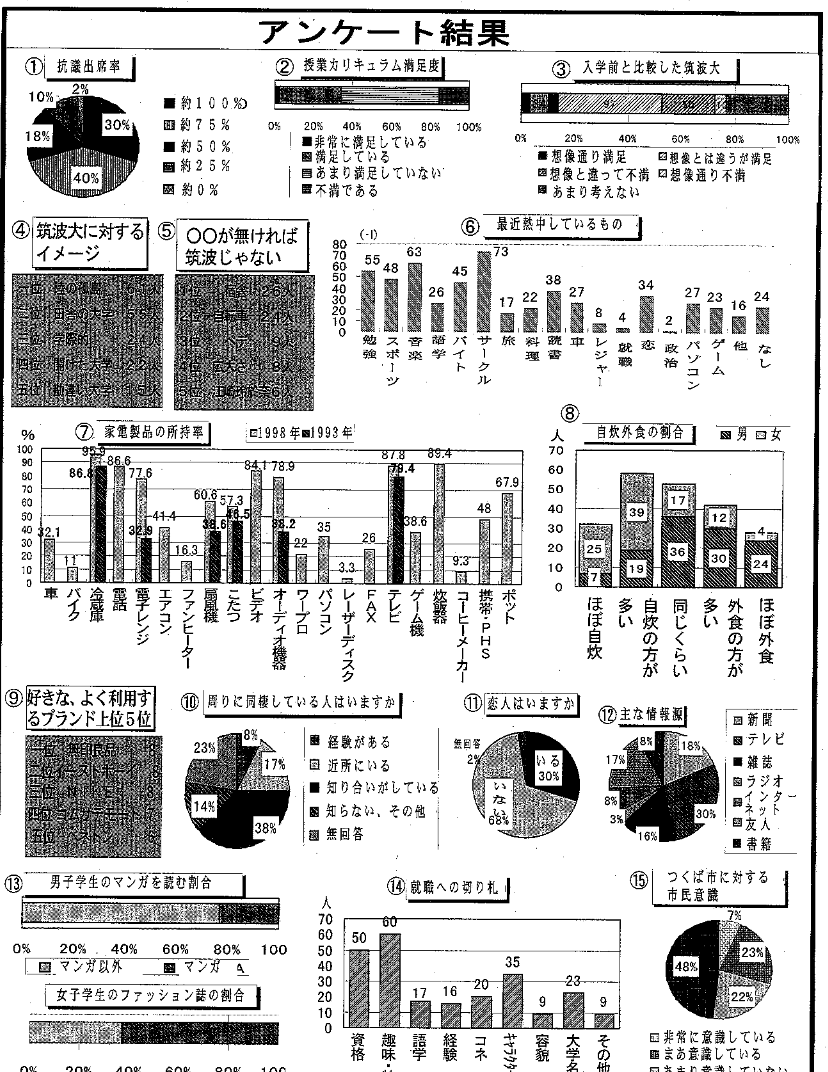
大学入学によって住まざるを得なくなったつくば市。この地に学生はどれほど馴染んでいるのだろうか。

つくばに住んでいる感想を述べてもらったが、「不便・田舎・のんびり」と見たままの回答が多かった。また同じ「のんびりした」でも、「のんびりしていてよい」もあれば「のんびりしすぎて刺激が足りない」もいて、肯定派と批判派に分かれていた。もっといえば一言「いい」という好意派（四七票）、「いや」という嫌悪派（四二票）という感情的両極端の意見もあった。実家の環境との比較、個人の性格などによって評価も違ってくる。同じつくばでの生活も「のどかなカントリーライフ」として楽しんでいる人もいれば「つまらない田舎暮らし」に飽き飽きしている人もいることが伺える。

つくばに住んでいて不便なことでは「車がないと不便」「店が無くて困る」「鉄道がない」に集中した。いずれもつくば住民ならば誰もが意識せざるを得ない問題である。

つくば市民であることを意識しているか⑮聞いたところでは「あまりない」「全然意識していない」を合わせると七〇%が意識していなかった。大学在学中の仮の住まい、という前提があるため、住民と隔たりができてしまうのはある程度仕方のないことではあるかもしれない。

以上のような結果になった。さて、あなた自身と照らし合わせてみていかがであっただろうか。



挨拶に代えて

一五〇号通過に考える

自己満足ではない　責任持った活動を

筑波学生新聞の創刊から一六年。今号で一五〇号を迎えた。

五〇号毎に記念号を出しているが、自分が代表の時に節目を迎えられたことを嬉しく思う。だが、筑波大学新聞と筑波学生新聞の違いが「売ってる方、無料の方」程度の認識しか得ていないことは残念だ。毎月新聞を出しているため、なかなか自分を振り返ることは難しい。そこで今回一五〇号を記念して、少し筑波学生新聞の現在について考え直してみることにしよう。

一九八二年、当時の編集員は筑波大学新聞で活動していた。しかし、大学側が学生に編集権を与えない方針をとったため（学生はアルバイト扱い）これに反発。言論の自由を得るために、当時の編集員全員が大学新聞を脱退、新たに筑波学生新聞を設立した。

筑波学生新聞は、許可制をはじめとする大学の管理姿勢に対立、マスコミにも「管理大学からの自主メディア」と注目を浴びたという。

だが八〇年代から九〇年代へ。大学の態度の軟化と呼応するように学生新聞も衰退していった。ついには九二年、一〇八号を持って一時休刊と相成った。

休刊で一時新聞会の生命は途絶えたかに思われたが、自由な編集方針の存続のため九四年に復刊、九八年十一月に一五〇号を迎えたのである。

※　※　※

筑波学生新聞はサークルである。創刊当時から「自由な編集方針」「外部団体の支援を受けない独立採算」を掲げていた。書きたいことを書く人が集まった団体なのだ。

ただ、普通のサークルと決定的に違う要素がある。

例えば遊びサークルの場合、何かの都合でやめたり廃部にすることは容易である。前後に後腐れがない。だから、それは「アマチュア」団体と呼ぶことが出来る。だが新聞会の場合広告主との契約、定期購読者との契約など、途中で気軽にやめることのできない厳しさを持っている。そのため、新聞の記事は書きたいことを書くとはいえ、必ず編集員全員による推敲がある。発行日を遅らせない義務がある。そういった意味で「セミ・プロ」という意識が必要なのだ。

では現在の新聞会に「セミ・プロ」意識があるかと問われれば、返答に苦しんでしまう。

以前の学生新聞を眺めると、有名な評論家の講演会や読者を意識させるおもしろい話題に富んでいる。

それと今の新聞を比べると、まだまだ自己満足の「アマチュア」の世界を脱していないのではないかと思うのだ。

アマチュア団体は自己満足の団体だ。自分のしたいことをする。本来の目的からは逸脱していないので、それはそれで良い。だが、それに甘んじている段階では社会の評価の対象にはならないのだ。他人に影響を与えられなければ自己満足を超えることはできない。

新聞会は既に（幸か不幸か）その活動自体が新聞を買ってもらい、批評を受ける立場にいる。第三者に影響を与えられる立場にいる。紙面のレベルは他者の評価を待たねばならない。だが、我々は常にその立場に恥じないよう、「セミ・プロ」としての自覚を失わないよう鋭意努力している。

ご購読いただいている読者の皆様をはじめ、ご協力して頂いた多くの方々に感謝します。今後も変わらぬご支援を下さいますようよろしくお願い致します。

筑波大学学生新聞会
編集代表・小幡健太郎

ひとのめ４１～狂気～
http://www.iinet.or.jp/~hitonome/hitonome.html

150号ニ寄せて

Episode:150
Present Message

村山慶太郎氏（本紙ＯＢ）

ふと、疑問に思うことがある。「何故、筑波学生新聞は続いているのか？何故、毎年新入生がはいってくるのか？」もちろん、会員の必死の勧誘のせいもあるだろう。宣伝ビラをせっせと撒いたせいかもしれない。それでも、疑問は消えない。学生新聞の創刊時と異なり、複写は安価に容易になり、ワープロも普及した。学類誌程度の同人誌なら簡単に出来る。インターネットだって、それに接続できる環境が全ての学生に開かれている。なのに何故、手間のかかる新聞なのか。いや、新聞にこだわるとしても、同じ学生の新聞として大学新聞、筑波ジャーナルがある。そこなら大学や宗教団体がスポンサーについてくれるので、発行資金の調達のために広告取りや定期購読集めなどしなくてもよい。どうみても筑波学生新聞は分が悪い。なのに今まで続いている、それは何故だろう？それは、筑波学生新聞にある何かのせいだ。何か、それは自らが他者を納得させるものを必ず書かねばならない困難さではないだろうか。

筑波学生新聞には多数の読者がいる。記事原稿には会員の容赦ないチェックも入る。だから、ひどく真剣にならざるを得ない。広範で正確な取材、冷静で筋道だった論理、それが結実した文章を常に求められることになる。これは難しい要求だ。しかも、現在の青年のなかでは冷静、論理といったものは冷遇されている。生物的快楽が、ただひたすら重んじられている。格好良さが、必要とされている。それには、流行に迎合しなくてはならない。皆の考える格好良い像に、無批判に自らを合わせなければならない。垂れ流される情報を鵜呑みにして、それと同化しなくてはならない。それが何かを考えることなく。それではいけない。この閉塞は、うち破られなければいけない。それが出来るのはただ、第三者からみて納得できるだけの論理性と客観性を持ったものを作る姿勢、それだけである。現在の筑波学生新聞、ＯＢの目から見るといろいろともの申したいところはあるが、それでも非論理的な、不正確な、非客観的な記事を許さない姿勢は百五十という号数を重ねてもなお保たれている。この流れが途切れることなく、政治団体、宗教団体、大学、あるいは流行のスピーカーに成り下がることもなく、真に学生の手による本格的メディアとして続いて行くことを切に願う。

野口修氏（アクアク主幹）

一五〇号おめでとうございます。「学生に編集権はない」との規則がつくられたのを契機に学生記者が学外へ飛び出して貴会は設立されたと聞いています。それ以来、学生が自主発行している貴重なものだと認識しています。継続は力なりなどとは思いませんが、時には振り返ってみるのもいいものです。自らのポジションの確認のためにも。いくつかの顔が浮かんでは消えはしますが、それは力を運ぶもの、決して郷愁ではないようです。ご機嫌いかがですか。こちらはすこぶる元気です。状況のスピードは気になりつつも追っていこうとは思いません。耳元でおまえは何だと聞かれたら崩れ落ちてしまいそうだから。崩れ落ちる都市やヘッドギアの群れに言葉足らずにたたずみ、ただやり過ごす訳にもいかない。批評が何処で成立するかを見極めながら事をかまえる。現在は私たちの耳元で何をささやくのか。待ちくたびれた新たな混乱が顔を出す以外にも、言葉として記すものがあるはず。それを摘む作業が編集だろうか。

すでに縮刷版も五〇号までと一〇〇号までと、二冊出ており歴史のあるものになってはいるようですが、伝統等との言葉は身軽に避けながら現在的空間に言葉を挟み込んで入ってほしいものです。同時代の言葉をその場から発する特権が誰にでも許されつつあるとはいえ、批評が伴った言葉が誰にでも発することができるとはいえないから。学生新聞というメディアを振り返る事で導き出せる特権があるように、学生新聞というメディアはすでにつくばの歴史になりつつある。歴史は未来への宝であり重荷ではない。重ねられた言葉から特権を十二分に生かしながら、さらなる自由な冒険を繰り広げてほしい。いつの状況に於ても、これが私たちの言葉だと感じているものを表現や批評と呼びたい。

渡辺敏行（本紙関係者）

情報化社会と言われるようになって久しく、通信技術の発達には目を見張るものがある。そんな中、筑波学生新聞は紙という、ある種原始的なメディアを使って情報を発信している。新聞には電子メディアとは決定的な違いがある。

ホームページは間違いを見つけたら、すぐに訂正すればよい。相手もある程度限定されている。だが、新聞の場合、発行後はやり直しのきかない書面となり、不特定多数の読者の目にさらされることになる。記事は記者と当事者だけでなく、第三者には情報として伝わってしまう。その発信源たる記者たちには事実を正確に伝える義務と、自分の視点で情報が発信するといった権利が生じてくるに違いない。それは発刊当初から変わらず受け継がれ、その義務と権利によって新聞という古風なメディアは成り立っている。二十一世紀が近いが、筑波学生新聞の方が僅かに早く節目を迎えた。記者たちには記事と一緒「変わらぬもの」を持っていって欲しい。

最後になるが、一五〇号という節目に関わらせて戴いた事に感謝すると共に、十六年以上にわたって新聞を発行してきた筑波大学学生新聞の部員の方々に心から賛辞を贈りたい。

つくばの学生さん大歓迎　親身の指導とどこよりも早い卒業
12月1日より道路交通法の改正により、講習料がお安くなります。当校では11月より新料金で営業します。
公認　学園中央自動車学校
西武百貨店筑波店・丸井土浦店・ローソンと提携
つくば市苅間2006　TEL 56－1211 代）FAX 56－1212

つくばで住まいを探すなら…　―――　学生さん大歓迎　―――
東成商事株式会　TEL・FAX (55)2755
つくば市春日2丁目9の15

映画チケット取扱開始！！
土浦に行こう！！
～人数揃うと送迎無料～
つくばでの生活は飽きたけど、東京行くほど気合いが入んない。ヒマつぶしに映画を見ようにも映画館は遠い…そんなアナタのために、土浦の映画館と提携！！前売券ご購入の方を土浦へ無料送迎！！
「映画を見るだけじゃつまんないっ」ってアナタ、サービスは映画だけじゃない。映画館以外にも提携店は多数あります！！お店に組合員証を提示するだけで様々なサービスが…。迎えの待合室や時間は自由だから自分に合ったプランが！！映画を見て、商店街を回って、駅ビル行って買い物、ご飯を食べて…迎えはその後で！！なんてのもOK。
詳しくは生協までお問い合わせ下さい。
筑波学生教職員生活協同組合
営業時間:11:00～20:00
Tel 0298－55－9331
Fax 0298－55－0231
天久保2－9－2　リッチモンド2番街203

～しのびよる危険
大学内にひそむ犯罪ゾーン

筑波大学構内では、盗難注意のチラシが配られ、恐喝事件に対する注意を促す旨の張り紙があり、痴漢注意の看板を見ることができる。身の回りの人で、誰それは盗難にあったらしい、どこそこでは痴漢がでるらしい等と噂に聞いたりはするものの、実際のところはよく分からない。大学周辺の犯罪例をもとに環境科学課の研究生グループが分類した六つの危険地域別にその特徴を示してみる。

（小早川）

＊一の矢＊

一の矢ループは全体的に暗く、痴漢・強姦未遂などの事件が実際に起こっている。このゾーンが性的犯罪に偏っているのは、通行する車の量が少ない、電灯がなく暗いなど、人目につきにくいことが原因だと考えられる。また自転車を倒す、車内に引きずり込むというような強引な犯罪が多い。

一の矢ペデストリアンでは、連れ込まれる可能性のある緑地、街灯の届かない一部死角が存在していることがこういった犯罪の原因としてあげられる。

＊天久保二丁目＊

コンビニ、本屋などの商店があり、車の通行や人通りも多い。スパーには一日中人が出入りしていてそのまわりも明るい。しかし、午後十時以降は多くの店が閉まり隣接する天久保公園付近は真っ暗となる。八月の深夜、二十一才の男性が六人程の若い男に囲まれ殴る蹴るの暴行を加えられさらにお金を巻き上げられた、など暴行・恐喝が主な事件例である。

＊東大通り＊

歩道に街灯はないが、車のヘッドライトなどの明かりで薄明るい。主な事件例は痴漢、恐喝など。車の通りが激しいため人目につく可能性があり、強姦などの重大な犯罪は起こりにくいと考えられる。しかし、すぐ横が茂みになっている上、大声を出しても車の音で聞こえない可能性があるため注意が必要である。

＊東ループ＊

道の両側はグラウンドで人家がなく、人通りがなければ助けが呼べない。そのため昼夜を問わず事件が起きている。夜は街灯が比較的明るいが、車の通行はまばらである。事件例としては暴行・痴漢など。昼は図書館、夜は病院を訪ねるふりをし「知人が急に入院したので車に乗って教えてくれないか」などと言葉巧みに車に乗せようとしたり、また車に引きずり込もうとするといった手口の事件が数件報告されている。

＊平砂・追越＊

この地区は大学、宿舎が隣接しており、登下校など学内外への交通量が多い。

平砂・追越ペデストリアンは夜は暗くカーブでは見通しが悪い。事件例はさわる痴漢など。緑地帯は待ち伏せ型の犯罪を誘発していると考えられる。

平砂トンネル内は明るいが、逆に出入り口は暗いため死角がつくられている。二十才の男性が平砂トンネルを抜けたとたん若い男四人に囲まれ、脅されお金を巻き上げられる等、恐喝、暴行といった事件例がある。

また、宿舎における盗難、侵入なども多い。寝ている間に机上の現金をとられたり、ゴミを出しに行っている間に貴重品を盗まれるなどの例がある。現金や貴重品だけでなく、自転車から家具、靴やアルバムまで被害にあう物も多様である。宿舎の構造上誰でも入れ、周りも学生ばかりだという安心感や一人暮らしに不慣れなため鍵を開けっ放しにしてしまうことも多いようだ。

＊春日四丁目＊

この地区には似通ったアパートが狭い間隔で並列している。建物と建物の間は人目につかないため、潜伏しやすい場所となっている。住人のほとんどは学生の一人暮らしの上、入れ替わりも激しく誰が隣人で誰が不審者かはわかりづらい。学生街は昼間に人がいなくなるためその間に侵入、盗難などの犯行が行われるようだ。

暗さより人気のなさが 被害をまねく

暗い場所が危ないと思われがちだが、明るい場所でも犯罪は起きており、暗さよりも人気のなさが犯罪を誘発する。通行量にばらつきがあっても人が必ず通るところがねらわれる。アパートや宿舎など学生の生活の場となる地域では、移動経路や生活パターンが似通ってしまうことが、まちぶせや侵入などの計画的な犯行を可能とさせてしまう一因であるといえる。

大学構内における犯罪について、大学側はどの程度把握しているのだろうか。

学生課によると暴行・恐喝については今年二件の報告があり、盗難については今年四月から五ヶ月間で二十八件の届け出があったそうだ。痴漢などの性的な犯罪はその性格上届け出が出されないことが多いため事件数の把握はしにくい。例えば学生一〇八名へのヒアリング調査では、一五名が触る、覗く、見せる、追いかけるなどの痴漢の被害にあっているが、大学本部への届け出はなかったという。学生課では直接大学へ被害の届け出があったものしか把握しておらず、十分な情報は得られていない。本人から届け出のあるものは暴行・恐喝・盗難のみであり他の犯罪による届け出は皆無に等しい。また、警察（生活保安課）も同様に認知件数は少なく、プライバシーの問題もあり事件についての詳しい情報は得られなかった。

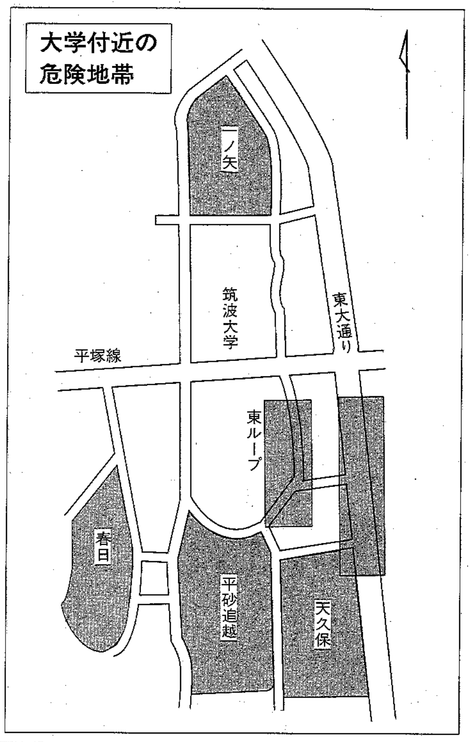
届け出があった宿舎における盗難をについて見てみる。被害者のほとんどは入ってきたばかりの新入生である。被害が最も多いのは四月であり、ついで六月から九月までの夏場にかけての被害が多い。

こういった盗難の原因は、本人の不注意によるところが多いと大学本部の担当者は話す。ちょっとした外出にも鍵をかける習慣などで、盗難はかなり防げるということだ。

大学本部は対策として、掲示板やチラシ、宿舎における放送で注意を呼びかけたり、電灯を設置したり等といったことをあげている。今年に入って大規模な刈込みや枝切りも行った。平成五年度以降から平砂・追越地区における盗難事件が多発したため、去年からこの地区内でのつくば中央警察署による巡回の依頼を申し入れており、盗難は減少傾向に向かっているそうだ。

また、大学側は宿舎を中心に巡回パトロールを頻繁に行なっている。しかし、この巡回パトロールが機能しているのならば警察に巡回依頼をする必要があるのだろうか。駐車違反の取締をしているというのが学生の認識らしく「散歩してるおじさん」とまで言われてしまう点、その警備には疑問が残る。制服で見回っているだけで犯罪抑止効果があるとのことであるが。

そうなると対策もすべての犯罪に対応できるわけではなく、最終的には本人の自覚に頼るしかない部分が出てくる。「もっとちゃんと自覚して気をつけるべきだ」との話に、人を見たら泥棒と思え、と聞かされているようで悲しくもあるが、結局は自分で自分を守らなければならない。



狂気の足音

犯罪の恐ろしさは経験してみないとわからない。つくば市で多発する犯罪、盗難、強盗、暴行・・・。ここでは、そんな体験をしてしまったAさんの話をお送りしよう。

その日、Aさんはアパートに帰るのが早く、十時頃にはふとんに入っていた。異変に気づいたのは真夜中だった。ものがはっきり見えない程の暗闇の中、確かに人の気配がする。ベッドの横に立ってこちらを伺っているようだ。「寝ぼけて何が起きているかよくわからなかったんです。気づいたら首をしめられていました」腕をふりまわして懸命に抵抗した。力は相手の方が強い。「おとなしくしていれば乱暴にはしない」。若い男の声だった。そこでやっと悲鳴がでた。

かなり長いあいだ（たぶん十分くらいだという）どたばたと抵抗し続けていると、ようやく人の駆けつける物音がした。「もうほんと無我夢中だし、その間に、ベッドに頭を打ち当てられたり、殴られたり、後から点検したら、体中傷だらけでした」

犯人は、そのあとすぐに逃げ去った。かけつけた刑事の二人が犯人を追い、もう二人は部屋に残って色々なことを訊いた。何か盗まれたものはないか。けがの具合はどうか。

犯人の進入経路を調べても、かぎが壊されているわけでもなく、どこにも破壊の跡はなかった。「合い鍵を使ったらしいんです。顔見知りの犯行だろうって」。Aさんは何の心当たりもないという。何か、事件の予兆はなかったのかと尋ねると「今思えば、なんですけれど、ごみがなくなってたりしてたんです。部屋のものの位置が微妙に変わっていたり」

・・・以上Aさんは淡々と語ってくれた。Aさんはその後、かぎをとり変えたり、非常ベルをつけたり、人に自分の部屋を知られないために、アパートに帰ってもすぐにはあかりをつけない、風呂は明るいうちにはいる、などに注意しているという。

なおまだ犯人は逮捕されていない。

「なぜ就職するのか、青臭く問いかけろ」
佐高信氏に聴く「企業と就職」

学園祭で講演会を行った評論家の佐高信氏に、「企業と就職」についてお話を伺った。

（増田）

―佐高さんは企業を批判する発言をたくさんなさっていますが、佐高さんから見た学生の就職について聞かせて下さい。

今の学生を見ていて一番感じるのは、「自分の入りたい企業、親が納得する企業」と「スキャンダルを行う企業」とのイメージが合致していない。例えば今、防衛庁との癒着でNECの汚職が問題になっているけれど、学生には人気のある一流企業でしょ。リクルート的な雑誌には何も書かれてないし、汚職は学生の目に映っているのかな。企業の表の顔というのは紙一枚の化粧でしかない。

一流企業の「一流」って何かを考えて欲しい。一流企業の方が過労死は多いし、汚職だらけ。それをどのように受け止めるかが問題だと思う。

こう言うと、「では、小企業に就職すればいいのですね」という学生が出てくるんだよ。そういう姿勢が問題。いつも精神安定剤を求めている。

―汚職やスキャンダルを起こしているのはその会社の一部だけではないのですか

頭取や社長だけが悪くて、ふつうの従業員は悪くないというのは間違い。少なくとも、知らなかった罪というのは会社内の全ての人に当てはまる。

―我々は就職する時、どのような点に注意すればいいと思われますか

学生のうちに「自分はなぜ就職するのか」という青臭い問いかけをしなければならない。就職には、生活のための就職と、やりたいことをするための就職という2つの側面がある。そこも考えなければならない。

会社には呪縛のようなものがあって、所属することの意味を考えていないと簡単に流される。

日立では「みそぎ研修」といって新入社員研修で、伊勢神宮に流れる冬の川にふんどし一丁で入らされるんだけれど、これも「バカになるために」やる。松下なんかは毎朝社歌を歌うけれど、これも「一週間で疑問を持たなくなる」。

社宅なんかも呪縛の一つかな。いつも私は「社宅はサティアンだ」って言っている。「素直になるな、待っているのは過労死だ」と学生に言いたい。

流されたままでいると「会社のために総会屋に賄賂を渡した」というようなことになる。これも自分を見ない言い訳でしょ。

今の学生を見ていると面達（面接の達人）やリクルートの本を読んで、会社に入るテクニックは持っているが、入りたい会社がどんな会社か解っていないように見える。

―企業と学校の違いはありますか。

学校は受け身で会社は主体性が必要。基本的に学校では言われることをこなしていけば前に進める。しかし、企業では受動的になっていると簡単に流される。これの転換が難しい。

よく学生に「佐高さんの著書を読んで、今の企業の悲惨さがわかりました。では、どこの企業がいいのですか」と聞かれる。こんな時は「知らん。あなたが入る企業を誰が選ぶ？ほんとに私の本を読んだの」と答えることにしている。こういう姿勢が問題だと気づかないのかな。

▶会場は立見がでるほどの盛況だった

インタビュー 映画「ユキエ」監督 松井久子さん

アルツハイマーの妻ユキエは病気が進行するにつれ自分を失っていくような不安を覚える。アメリカ人の夫リチャードは初め妻の病気を認めたがらないが、やがて全てを受け入れ介護する。妻も介護される自分に納得する…支え合いながら二人で暮らしていく老夫婦の愛を描いた映画「ユキエ」の監督、松井久子さんに話を聞いた。

「映画とは出会いだ」と語る監督が「ユキエ」の原作「寂寥広野（せきりょうこうや）」と最初に出会ったのは五年前の春。行間豊かなこの作品をテレビドラマ化したいと考えるが、テーマが暗すぎるとどの局からも拒絶された。

諦めきれず、「寂寥広野」の舞台であるルイジアナ州に渡り、アルツハイマー患者に話を聞いて回った。そこで出会った「死にたくても死ねなくてごめんね。だけどこれはお前たちとのスロー・グッバイ（緩やかな別離）だと思っているんだ」という、家族に向けた老人の言葉に感動し、スロー・グッバイを作品のテーマにする。

ルイジアナ州から撮影許可を得ると、映画の資金集めに奔走し、九六年には二億円を集めた。「午後の遺言状」監督の新藤兼人さんに脚本を依頼したところ、監督をやるよう勧められた。

ラストに流れる「You Are My Sunshine」を歌うジニー・デイビスさんはルイジアナ州知事を歴任し、映画に出てくるサンシャインブリッジを造った。運命的な出会いを感じ、九十六歳だった彼に自宅でのレコーディングを頼んだ。七回の取り直しの末、感動的な歌ができた。

つくばノバホールで九月二十三日に行われた「ユキエ」上映会の後、トークショーの舞台に現れた監督は緑のラメニット、バミューダパンツにスニーカーという格好。終始笑顔を絶やさない。おばさんらしからぬ若々しい印象に、映画作りに三年間打ち込んだ監督の放つエネルギーを感じた。

「ユキエ」が好評を博した今、次回作が期待されるが、「次回作を作るともう二億必要なわけでしょう。今は生まれて半年の我が子『ユキエ』を連れてふらふらしていたい。いつもアンテナを立てていればそのうち、これだ！が見つかるはず」。

（木原）

＊＊＊

《松井久子プロフィール》

東京都出身、早稲田大学第一文学部演劇学部卒業後、フリーライターかつ編集者として雑誌「anan」「クロワッサン」などに関わる。三十三歳、三十九歳の時プロダクションと映画企画制作会社を設立。五十三歳にして映画監督デビューを果たした。

▶「若い人にみてほしい」と語る監督

Catch 秘境 “オカマ達の楽園”
～雙峰祭芸術専門学群企画～
「ゲイバー峰の巣」

連日に及ぶぐずついた天気から一転し、始終驚く程の快晴で飾られた今年の学園祭。様々な団体によって、最大限の時間と労力、そして自らの青春が注ぎ込まれた3日間。日頃の授業のだるさや漠然とした未来への不安から自分を解き放ち、力の限りはじけ合い二度と帰らぬ今を謳歌した日々。

この素晴らしき我らが学祭のなかで一際眩い光を放ち、道行く人々の目を否応なしに魅了して止まない集団が存在した。

ゲイバー蜂の巣。噂に聞いたことのある人は大勢いることだろう。実際に入ってみたという人もたくさんいるに違いない。芸術専門学群一年生が毎年学祭で行う名物企画である。十数年の伝統とその強烈なインパクトに魅せられて、我々学生新聞会も体験取材を試みた。

まずは、メイクアップから。ファンデーションを顔に塗りたくり真っ赤な口紅で唇に色気を添え、頬染めによってさらに女に磨きをかける。ちなみに眉は細目に残し、すね毛はあくまで死守。そこをダークのストッキングでカバーして夜の女を演出させる。この時点で鏡の中で誰かが熱い視線を投げかけていることに気づく。今まで奥底で眠っていたもう一人のワタシ。自分の新たな可能性にうっとりとしてしまう。豊満な胸をタオルで作り、短めのスカートで大胆に太ももを露出させた頃には新しいワタシが今までのオレを凌駕し始める。

すっかり女と化した自分に酔いしれながら、いざゲイバー蜂の巣へ。初めに総勢三十四人のゲイ達を率い、この企画の中心的存在である、巣の女王クレオパトラさん（本名・井戸田教明さん）に体験取材にあたっての注意点と心構えについて語ってもらった。「一番大切なのは、お客さんを楽しませること。我々が席で飲むお酒もお客の勘定に入ります。お酒自体も悪いものを使ってないのでそれなりに高くつきます。そのぶん我々は会話でお客を充分楽しませて帰さなければならないのです。」あまりの真剣な態度と厚化粧にまみれた顔立ちとのギャップに苦しみながらも、何とか店の中に入り客の指名を待つことを許される。店の中と調理場をせわしげに歩き回る女のボーイさんたち。ゲイバーという男の世界の中で彼女たちには、客の出迎えや酒作りなどの脇役に徹してもらう。また、衣装の提供も女性陣に欠かせない仕事であろう。

待ち続けること二十分、ついに我々のもとに待望の指名の声が届いたのだった。

体を張った客へのサービス

客と共に席に座る我々新聞会精鋭ゲイ部隊（二名）。カップルらしき男女一組とその男友達数名が今回のお相手。互いに自己紹介を済ませた後、お客様に最大限の喜びと満足を与えるべく会話に華を咲かせようと試みる。が、何をしゃべっていいのやら。訳の分からぬ緊張と戸惑いの中で時間だけがいたずらに流れていく。結局ぱっとした会話もできぬままに終了。どうしようもない悔しさの中で血の涙を流す。ローマは一日にしてならず。ゲイも一日にしてならず。二度目の指名は一度目の失敗をいかしサービス精神旺盛な態度で臨む。ちょっと体を寄せてせつなげな声を出して甘えてみる。コミュニケーションとは、必ずしも会話だけがその手段である必要はない。肌と肌の語らいから相手と自分との体温を同一化させることによりある種の連帯感を生み出すこともできる。そんなわけでさらに体を相手の方へと傾けカクテルなどをねだってみる。しかし、今回の客は我々の積極的すぎるアプローチに退いているご様子。今回も反省すべき点を多いに残す。

失敗はあっても獲得したことも数多し。場の雰囲気にもだいぶ慣れてきた。時間的にこれが最後だと思われる三度目の指名で有終の美をぜひ飾りたいところだ。客は生物系の院生らしき男達三名と彼らに無理矢理連れてこられたと思われる一年生一名。この集団からは他の客とは違う異色の空気が流れ出ていた。席に座るとすぐに酒をおごってくれてこちらの会話にも乗り気に応じてくれる。アルコールに楽しい会話が添えられれば酔いが回るのも早くなる。初めはふざけ半分で言っていた口説き文句にも徐々に熱が入り胸や太ももにも彼らの手が伸びる。これはまずいことになった。奴らは飢えている。酒のせいで女とゲイの違いなど今の彼らにとっては皆無である。手つきがさらに怪しく動き出し頭の中で警告ランプが鳴り響く。全身に走る悪寒をこらえながらも常に絶やさぬ営業スマイル。お客様は神様だから。胸、腰、も。体中に神様からの洗礼を受けること数十分、やっとのことで最後の指名を終了させた。水商売の大変さを身をもって知ったのだった。

毎年恒例となったこのゲイバー企画。今年の総売上は七十万を越えて歴代の記録を更新することになった。ここで出た利益は新歓のための費用となり、そこで新入生達も即ゲイバー蜂の巣の存在意義を知ることになるのだろう。こうして伝統は語り継がれその時代その時代の色を添えられながら育っていく。

「今後もずっとこの企画が続いていって欲しいと思いますか？」という質問に、「私はそう思いますが、その時の一年生達がやらないといえば私は反対しません。」とクールに答えるクレオパトラさん。ぜひ続けていって欲しい。心からそう思う。

（今井）

▶一日ゲイに扮する芸術専門学群生達

CREATIVE HOUSE
AKUAKU 1979-1999
COFFEE お食事 お酒 JAZZ, ART
つくば市天久保2 6 1
TEL0298-51-4147
[pm3:00～am2:00]
営業時間が変わりました。

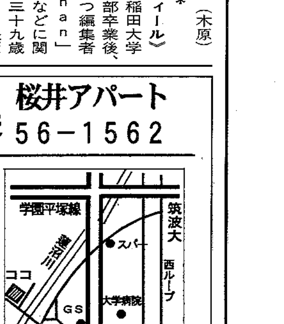
友 and 遊 甚八 居酒屋
年中無休
PM6:00より営業　Tel 55-6744

一流品のみの品揃えで安く安く大奉仕中

本館		テレビ館	パソコンプラザ
冷蔵庫	・国内CD	カラーテレビ	DTパソコン
洗濯機	・輸入CD	ビデオ	ノートパソコン
炊飯器	・ビデオソフト	ステレオ	プリンター
エアコン	・DVDソフト	DVDプレーヤー	デジタルカメラ
クリーナー	・MDソフト	レーザーデスク	パソコンソフト
マッサージ機	・電子レンジ	単品コンポ	ゲーム機
各種照明器具	・カメラ	カラオケ	ゲームソフト
各種家電品	・時計	BS/CS放送関連商品	書籍・各種OA用品
家電パーツ	・ビデオテープ	キーボード	パソコンラック

お客様第一・良心経営
石丸電気 つくば店
茨城県つくば市東新井31-13
電話 0298-51-1400 代表
営業時間＝午前10時～午後7時半
金曜・土曜は午後8時まで
秋の大バーゲン開催中
冷蔵庫・洗濯機・エアコン・パソコン

おかげさまで
150号を越えることが
できました。

筑波学生新聞

入居者募集 桜井アパート 56-1562
6畳、ダイニング・トイレ付き、
バス共同（シャワー有り）、
駐車場有り、敷金・礼金なし、
男性のみ。
18000（共益費3000）